

新町地域審議会

新市建設計画実施計画に係る質疑（ハード事業）

事業名	No.	質 疑	回 答
新町図書館建設事業	1	10月1日から閉館し、来年1月から教育会館で仮開館するということが、仮開館の規模はどの程度なのか。また、新館の竣工はいつになるのか。	現在の蔵書数は閉架図書も含め7万5千冊程度あるが、仮開館では児童図書500冊、一般書4千冊から6千冊程度、その他雑誌類については現在と同数を並べ閲覧していただく予定。 竣工は平成20年の夏頃を予定している。
	2	建替え期間中における住民サービスの低下はやむを得ないと思うが、その期間をなるべく短縮していただきたいが。	蔵書の移転等、様々な整理作業を伴うことから、10月から閉館し平成19年1月から教育会館で仮開館を実施。平成20年夏頃の新館開館まで約1年半という期間を予定しているが、準備が出来したい前倒しで開館したい。
	3	教育会館では一部開館となってしまうと思うが、現在ある蔵書数のまま、仮開館出来るような場所は他になかったのか。	様々な検討を重ねてきましたが、最適な場所がなく、最終的には教育会館で行うことになった。
	4	新図書館ではどの位の蔵書数を予定しているのか。	約10万冊を予定している。
支所庁舎建設事業	5	支所と保健センターを複合化するという案が出ていたが、現在のところどの程度具体的に決まっているのか。	保健センターとの複合化についても新市建設計画策定時に話はあるが、現在内部で検討しているところである。従って、まだはっきりとしたものが決まっているわけではない。
	6	支所はいつ頃出来るのか。	新市建設計画実施計画では平成19年度基本設計、実施設計、20年度に建設工事を行い21年度で現在の庁舎を取り壊す予定になっているが、現在それを見直しており、計画が1年ずれ込むことも考えられる。

事業名	No.	質 疑	回 答
第一小学校施設整備事業	7	どのような校舎になるのか。	現段階では建設委員さんから活発な意見が出されており、基本的な配置状況は現在の校舎と同様になるかと思われる。また、校舎の形については、現在最終的な案をつめている段階である。
	8	現在、新町の学校給食はセンター方式となっているが、高崎市では学校に給食室がある自校方式を取っている。新校舎ではどうなるのか。	自校方式を取り入れる形で現在設計が進められている。
	9	社会教育での施設開放について具体的な話はされているのか。	地域開放という点にも十分配慮して計画が進められている。地域開放を取り入れた場合はセキュリティ対策をどのようにするのか、また多目的スペース等も必要ではないかなど、子どもの目線に立った快適な学習環境、使いやすさ、安全性、工事期間中をどのように考えるか、という点から検討が進んでおり、現在基本的な考え方をまとめている段階である。
住民体育館建設事業	10	体育館建設はいつ頃になるのか。	新市建設計画では後期とされており、これは平成23年度以降の事業となる。事業計画は挙がっているが、具体的な内容はまだ決まっていないので、内容等は皆様の意見を聞きながら今後検討していくことになる。

その他の質疑

No.	質 疑	回 答
1	<p>水道管の埋設深度は合併後80cmでガス管は1m20cmとなっている。工期の短縮や予算の軽減を考え、同じ方式で出来ないものか。</p>	<p>水道管の埋設深度は場所によって異なり、車輛の多い所ではある程度の深さを保っている。合併前は1m20cmを基準に行っていたが、合併協議の中で高崎方式に合わせるということで、場所によっては80cmでやっているところもある。</p> <p>道路法施行令第12条第3項では、水管又はガス管の本線を埋設する場合においては、その頂部と路面との距離は1.2m(工事実施上やむを得ない場合にあっては0.6m)以下と位置づけられているので、ガス管については、本日このような意見が出たことをガス企業団に話をしたいと思う。</p>
2	<p>第一小は建替えによって自校方式による学校給食になるが、第二小と中学校は今後どのようなになるのか</p>	<p>高崎市の場合、基本的に自校方式になっている。一度にというわけには行かないと思うので、大改修の時期などに合わせて検討され、高崎市全体のバランスを見ながら計画的に進められていくことになるかと思う。</p>
3	<p>合併後、新町地域の当番医が無くなったと思われるが。</p>	<p>新町の先生方は藤岡多野医師会に所属し、新町分区という形で当番医の協力をしていただいている。確かに6月から9月は当番医を置けなかったということだが、これは合併とは関係なく、あくまでも先生方の都合によるもの。今後もこのような流れで行われると思われる。なお、10月からは当番医が置かれている。</p>
4	<p>竹下内閣のときに「ふるさと創生資金」ということで各市町村へ1億円が支給されたと思うが、そのお金はどうなったのか。</p>	<p>新町については全額基金として積み立て、その利息部分のみ、ふるさと祭りや中学生海外派遣といった事業へ充当してきた。しかし、この合併で各一部事務組合から脱退する必要があったため、その脱退精算金が7億弱あり、合併前に議会の同意を得て、この基金を財政調整基金に組み替え、その精算金の一部として充てさせていただいた。</p>

No.	質 疑	回 答
5	<p>3校に防犯カメラが設置されたが、それを確認している先生方があまりいないというのが現状となっている。また、カメラの設置場所もあまり目立たない所になっている気がする。先生方にカメラの確認をして下さいというのではなく、もう少しカメラを付けているということを防犯上強調していただけないか。</p> <p>防犯カメラが設置されたということを保護者へお知らせするものがあったら良いと思うのですが。</p>	<p>カメラを設置してまだ間もないということで、先生方がなれていないということもあるかと思うが、何か事が起こる前に良く活用できる体制や、予防の面での活用方法等を今後よく学校と確認し実態を見ながら検討したい。</p> <p>市全体の中ではお知らせしているが、もっときめ細かいものをとということで学校へも伝え、新町地域お知らせ版などで新町地域全体へPRしていければと思う。</p>
6	<p>家庭でいらなくなった本を捨ててしまうのはもったいない。そこで図書館でそういった本を設けるコーナーを設け、貸し出したら図書館の利用も増えるのではないか。</p>	<p>現在も本を捨てられずに図書館へ持ってくる方が沢山いる。委員さんがおっしゃるようなことが出来ればという思いはあるが、その本が図書館に合うものなのか、必要なものなのか、また場所等の問題も含め様々な問題があるので、現状では、清掃センターでのリユース事業と連携し、再利用を図る形をとっている。</p>
7	<p>平成19年度予算編成にあたり、道州制をにらんだ予算編成(調査費など)を考えているか。</p>	<p>新高崎市は人口30万以上の都市になったことから、平成23年の中核市移行を予定している。従って、それらを睨んで予算編成等を行っていきたいと思っている。</p> <p>また、道州制に対する平成19年度予算については、まだ調整等を行っていないので無いと思っているが、調査は行っていきたいと考えている。</p>
8	<p>平成19年度予算編成にあたり、市税の徴収率向上に対する具体的な取り組みについてお聞かせ願いたい。</p>	<p>徴収業務については、現在、納税課に嘱託等による専門職員を配置して、日夜、滞納している方の家庭を訪問し納税を促しているが、更に、これらを活用し収納率向上に努めていきたい。</p>

榛名地域審議会

新市建設計画実施計画に係る質疑（ハード事業）

事業名	No.	質疑	回答
榛名地域観光振興事業	1	榛名湖に訪れる観光客は年々減少している。榛名湖は赤城・妙義とともに県立公園であるが、県より今後の計画等について明確な指針が示されていない。また、県立公園の所管は、現在自然環境課公園係であるが観光課にならないか。	県立公園については、直接高崎市の所管ではない。 榛名湖畔は、榛名の観光及び榛名地域の経済の活性化のためにも、重要な地域である。榛名湖畔について、一元的に考えながら県と高崎市の担当課と協議していく。
	2	榛名湖の景観保護のために10年ほどボランティアで環境整備を行っている。計画の中に景観保護のための環境整備について記載がないが。	平成17年に国で景観に関する法律ができた。高崎市も景観形成団体として申請し、市街地の景観保護ばかりでなく、地域全体として保護するべきものも含めて条例制定に向けて検討作業を進めていく。
下里見地域コミュニティーセンター整備事業	3	下里見地域コミュニティーセンターの建設について、どのくらいの規模で計画しているのか。	下里見地域は大字会館がないところである。これから地域の団体・組織を網羅して意見を伺い、施設の機能・規模・建設場所などについて検討し決めていく。

新市建設計画実施計画に係る質疑（ソフト事業）

事業名	No.	質疑	回答
バイオマスシティプロジェクト事業	1	バイオマスは具体的にどのような方法で行うのか。	現在はまだ、具体的ではないが、梅・梨の剪定枝や間伐材等を使用するように考えている。今後はプロジェクトを立ち上げて、榛名地域のイメージアップに向けて取り組んでいきたい。
			平成17年箕郷町でバイオマスの調査を実施し、梅の剪定枝がどのくらいあるのか。どのくらいの梅農家が提供してくるのか。梅の剪定枝を使用したときの燃焼実験を実施した。これと同様の実証を行っていきたい。

その他の質疑

No.	質 疑	回 答
1	<p>梅生産農家は近年赤字続きで、梅園の荒廃が心配される。 生梅・梅加工品の販路拡大のための行政サイドよりの応援をお願いしたい。</p>	<p>梅の販売については、農協と連携・協議しながらいろいろな方策を考えていく。</p>
2	<p>参与制度の行政上の役割について伺いたい。</p>	<p>参与職は非常勤の特別職という位置づけで、平成18年4月より旧4町村長が参与に就任。また、参与職は旧4町村の区長会よりの強い要請により設置。 高崎市の市町村合併は、地域の特色を活かしながら地域全体の発展を目指すものであり、住民の声や考えを行政に反映させるためにも地域のリーダーの方の力を必要としている。 市長参与連絡調整会議を月2回開催。</p>
3	<p>榛名支所に電話すると「高崎市役所 榛名支所 地域振興課 ですよ」と丁寧に 応答されるが、もっと短くていいのではないか。</p>	<p>電話の応答については、協議して短くわかりやすいものに統一したい。</p>